

池ヶ原湿原の植生再生と利活用の取り組み

2017年5月 福井県自然保護センター

池ヶ原湿原の変遷と人々の暮らし

池ヶ原湿原では、古くから雪囲いに用いるヨシズの材料としてヨシの刈り取りが行われ、多雪地特有の生活文化と多様な植物が生育する湿原植生が育まれてきました。しかし、ヨシが利用されなくなったことや周辺の土地開発の影響で、ハンノキなどの樹木が繁茂し、希少な植物が見られなくなってしまいました。

江戸～昭和30年代

- 平泉寺町の住人がヨシを**ヨシズ**などに利用
- 昭和初期には入植があり、周辺が開墾

- ヨシが茂る湿原植生が長期間持続
- 明るい環境を好む多様な種が生育



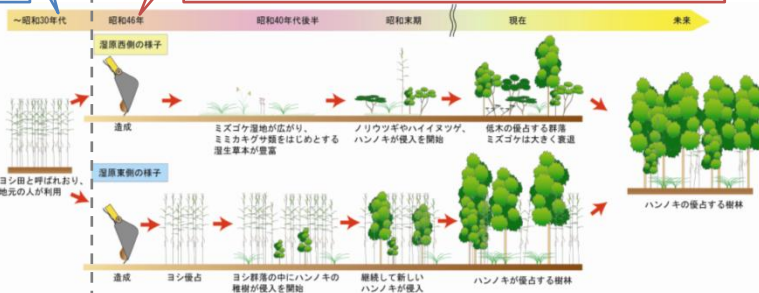
平泉寺町で現も続くヨシズの利用

昭和40年代以降

- 化石燃料の普及、化学肥料の普及、周辺の土地開発

植生遷移進行、乾燥化

- ハンノキ分布拡大、ヨシ繁茂
- 特定外来生物オオハンゴンソウ侵入
- 希少な植物の生育地が消失



1991年
ハンノキが定着して間もない頃



2009年
ハンノキが高木化し、ヨシが茂る

植生再生の取り組みとよみがえった池ヶ原湿原

2009年以降、自然保護センターでは湿原再生の取り組みを行い、ミズチドリやノカンゾウなど希少な植物が多く見られる湿原植生が回復してきました。

①ヨシの刈り取り

②ハンノキや低木の除去

③貧栄養水の水位向上
土のう設置

④オオハンゴンソウの駆除

目標植生へ誘導



希少な植物の増加



ミズチドリ



2009年 239個体



2011年 2,018個体



ノカンゾウ



2009年 15個体



2011年 12,028個体

他にも多様な湿原植物が見られるように



池ヶ原湿原を守り活用する地域の活動

再生した湿原植生の保全と利活用を目的に、2014年からは、専門家や地域の企業・団体・学校、行政からなる協議会が設立されました。

協議会では、湿原保全のためのモニタリングや定期的なヨシ刈りイベント、自然観察会、地元小学校の環境教育などが行われています。

池ヶ原湿原保全・活用協議会

専門家

企業

マイランEPD合同会社
ケイター・テクシーノ株式会社
山田兄弟製紙株式会社

福井県

奥越高原牧場
奥越高原青少年自然の家
自然環境課

団体

池ヶ原湿原を守る会
勝山ロータリークラブ
ノーム自然環境教育事務所
自然観察指導員の会

平泉寺小学校

勝山市

ジオパークまちづくり課

事務局：福井県自然保護センター

自然観察会やヨシ刈りイベントの開催



小学校の環境教育の場として利用

